VERISIGN™

ドメイン名業界概要報告

第9号 - 第1刊 - 2012年3月

ベリサイン・ドメイン・レポート

ベリサインは.COMおよび.NETのグローバル登録事業者として、ドメイン名業界の状況について、様々な統計調査や分析調査を行っています。また、ベリサインはインターネット向けデジタルインフラの大手プロバイダとして、本報告を通じて、重要業績評価指標(KPI)や成長機会など、ドメイン名登録業界の重要なトレンド概要を業界アナリスト、メディア、企業に提供しています。

エグゼクティブサマリー

2011年第4四半期末におけるトップレベルドメイン(TLD)全体の登録ドメイン名の件数は2億2,500万件以上で、第3四半期から590万件、2.7%の増加となりました。登録件数は2010年第4四半期から2,400万件以上、10%も増加しました。

国別コードトップレベルドメイン(ccTLD)の登録ドメイン名の件数が9,060万件、前四半期からの増加は4.2%、前年からの増加は13.2%となっています。[1]

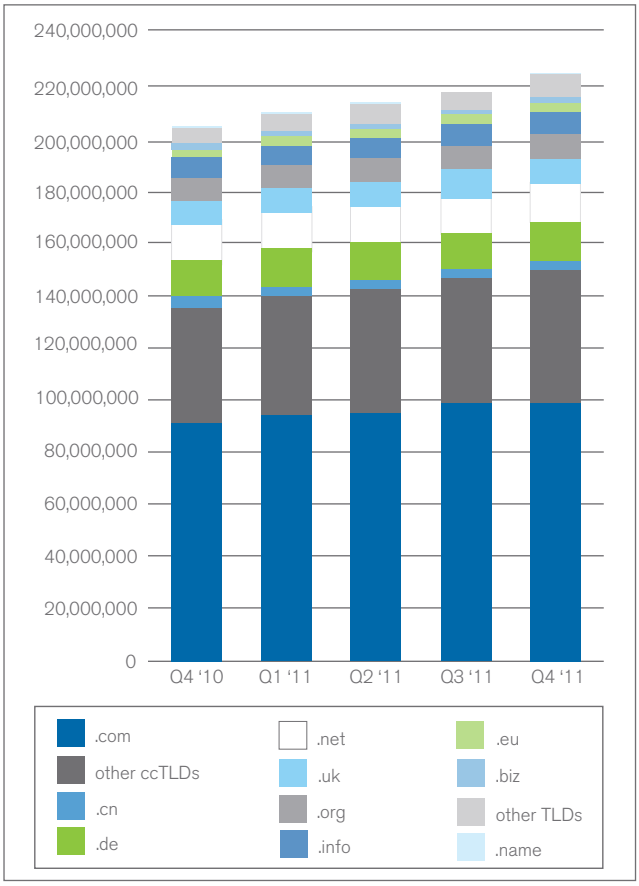
.comや.netなどのTLDは、総体的に伸びており、2011年第4四半期のドメイン名の合計件数は1億1,380万件に達しています。これは、2011年第3四半期から約2%増加し、2010年の同期比で8%の増大となります。新規登録の.comと.netの件数は、この四半期で合計790万件です。これは、前年と比較して4%の増加と第3四半期からの0.3%の新規登録数の減少を反映しています。

ゾーン規模を基準としたTLDの順位は第3四半期から変化はありません。

ベースサイズで最大のTLDは、順番に、.com、.de(ドイツ)、.net、.uk(英国)、.org、.info、.tk(トケラウ)、.nl(オランダ)、.ru(ロシア連邦)および.eu(欧州連合)となっています。

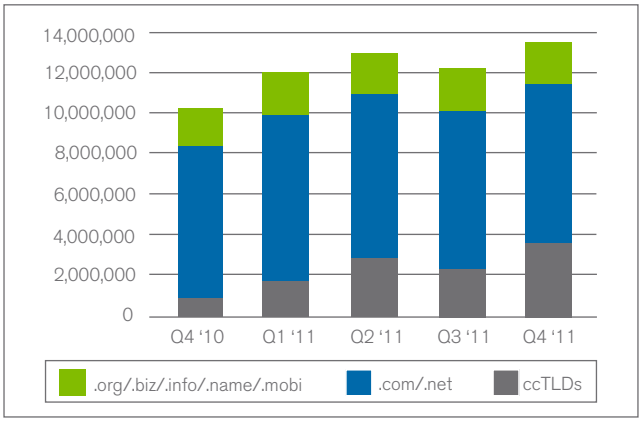
ドメインの総登録数

出典:Zooknic、2012年1月。ベリサイン2012年1月。



新規登録数

出典:Zooknic、2012年1月。ベリサイン2012年1月。ICANN月次レポート。



1 このレポートのgTLDおよびccTLDのデータは、このレポートの時点での推定であり、さらに詳細なデータを入手した時点で変更される場合があります。

ゾーン規模ごとのCCTLDの内訳

2011年第4四半期のccTLD合計登録数は約9,060万件でした。新規追加ドメイン名は370万件で、第3四半期と比べて4.2%の増加でした。1年前と比べたドメイン名の増加件数は約1,060万件で、13.2%の増加となります。

特に規模の大きい20のccTLDのうち、ポーランド、スウェーデン、トケラウおよびロシア連邦は、前年同四半期と比べて4%以上成長しました。前四半期と同様に4%以上成長したのは、トップ20のドメイン中4つのドメインだけでした。

全世界では290以上のccTLD（国際化ドメイン名を含む）が拡大しており、ccTLD上位10位が、全登録数の60%を占めています。

2011年第4四半期、トップccTLDレジストリ（ドメイン名ベース順）

出典:Zooknic、2012年1月

1. .de （ドイツ）
2. .uk （英国）
3. .tk （トケラウ）
4. .nl （オランダ）
5. .ru （ロシア連邦）
6. .eu （欧州連合）
7. .cn （中国）
8. .br （ブラジル）
9. .ar （アルゼンチン）
10. .it （イタリア）

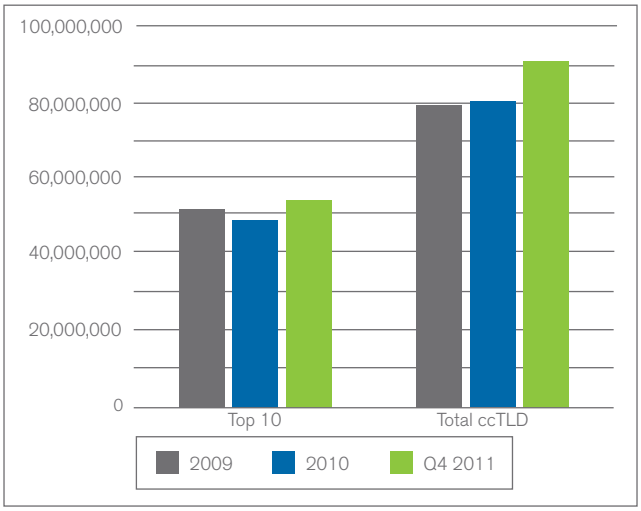
.COM/.NET ダイナミクス

2011年第4四半期の.com/.net更新率は73.5%で、第3四半期の73.3%からの増加でした。更新率は、期限切れになるドメイン名ベースの構成や、特定の登録機関の関与などにより、四半期ごとに異なります。

更新率では、ウェブサイト名に解析されるドメイン名がもっとも更新される見込みが高いため、ウェブサイト名に解析されるドメイン名が主要な要素となります。ベリサインでは、.comと.netのつくドメイン名の88%が、ウェブサイト名として解析される、

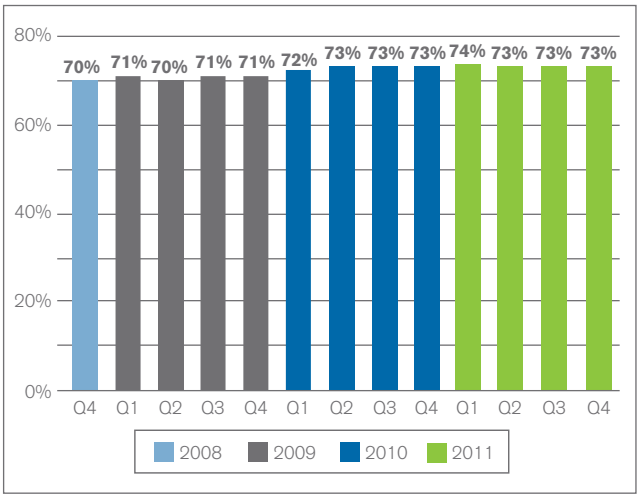
ccTLD（国別コード）の内訳

出典:Zooknic、2012年1月



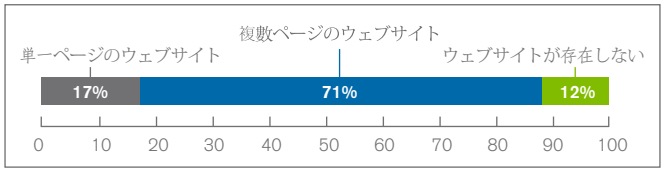
.com/.net登録更新率

出典:ベリサイン、2012年1月



.com/.netウェブサイト

出典:ベリサイン、2012年1月



つまり、そのドメイン名にアクセスするユーザーはウェブサイトにたどり着くと推定しています。これらのウェブサイトは、複数ページまたは単一ページのウェブサイトとして、更に記述されている場合があります。単一ページのウェブサイトには、工事中のもの、ブローシャーウェア、パーキング中のページがあります。そのほかに、オンライン広告の収益を生成するパーキング中のページもあります。

当四半期におけるベリサインの平均的な1日のドメイン名システム(DNS)のクエリ負荷は、640億回となっており、ピーク時は1,170億回でした。前四半期に比較して、1日の平均は8%増加し、ピーク時は51%増加しました。前年比で1日の平均は2%増加し、ピーク時は59%増加しました。

ドメイン名ハイジャックは深刻であるものの、管理可能な脅威

企業および団体はその規模を問わず、通称「ドメイン名ハイジャック」対する懸念が増大していると報告しています。ドメイン名ハイジャックとは、パスワード窃盗またはソーシャルエンジニアリングにより不正にドメイン名を乗っ取る犯罪のことです。

このようなハイジャック攻撃では、犯人は長期に渡り被害者のドメイン名を完全にコントロールできる場合が多く、重大な影響を及ぼします。ハイジャック中、犯人は被害者の顧客を騙し、マルウェアをばらまく拠点としてハイジャックしたドメイン名を使用し、被害者が築いた評判とブランドをおとしめることができます。

ドメイン名ハイジャックの危険性は大きいものの、適切な計画と、脅威を緩和する技術により、危険を大幅に軽減することができます。

セキュリティ専門家が定義するとおり、ドメイン名ハイジャックは、攻撃側がドメイン名の登録データを改ざんし、正当な登録者からドメイン名を奪い、ドメインの管理と運用権を獲得することで起こります。

攻撃側はドメイン名をハイジャックするため、スパイウェア、キーロガーに加え、オンライン詐欺師が信頼の連鎖(chain of trust)内の登録者、レジストラ、その他の事業者になりすますし、パスワードや個人情報へアクセスする「ソーシャルエンジニアリング」など、幅広い技術を使用します。使用される技術に関わらず、登録者に深刻な被害をもたらします。一旦攻撃側がドメインの全所有権を獲得すると、詐称ウェブサイトの作成、不法で危険なコンテンツのホスティング、元の所有者に対する恐喝行為など、数々の不正な目的のために自由に使用できます。

また、攻撃側の技術力次第ですが、ハイジャックされた登録ドメインは、異なる複数のレジストラや登録者を介して出所を隠される場合が多く、元の登録者が所有権を取り返すことは非常に困難です。この攻撃の有効性は、被害者がドメイン名の危険に気を配っているかに依存します。慎重に監視をしても、攻撃側が非常に巧妙な場合、メールやネームサーバの記録に残さず、ハイジャックしたドメインを複数回移管できる場合があります。

大半のドメイン名ハイジャックは防ぐことができます。適切な技術とツールを使用することで、登録者はハイジャックの脅威を大幅に軽減できます。

レジストラのセキュリティ ツールを調査し、それらを活用することは、ハイジャックのリスク軽減に役立ちます。大半のレジストラは脅威を認識しており、不正から顧客を守ることに注力しています。レジストラと積極的に連絡を取り、登録データとコンテンツ情報を最新の状態に保っている登録者は、ハイジャック犯が狙う「カモ」になることを避けられます。

また、他のインターネットセキュリティ分野にも適用できるパスワード領域のベストプラクティスの活用は、ドメイン名をハイジャックから守るためにさらに重要になっています。登録者は適切に、複雑なパスワードを設定し、定期的に更新し、安全な状態に保たなければなりません。

他の技術はあまり目立ちませんが、ハイジャックに対してより高いレベルの保護を求めている企業・団体が、すぐに導入できるものです。

顧客の見えない部分で、ベリサインを含むいくつかのレジストリでは、登録者の保護のために二要素認証を採用しています。レジストレーション移管処理の際、二要素認証では登録されているパスワードと、パスワード生成トークンを使用することが求められます。

運用しているドメインのために、ベリサインはレジストリ・ロックを提供しており、登録者は、登録情報変更の可否を設定できます。レジストレーション移管処理の際、最高レベルの設定では、ベリサインと登録者による直接的なやりとりが発生します。

レジストラにより提供されているレジストリ・ロックや他のロック・ツールのメリットを活用することで、登録者は、知らないうちに無断でドメイン名登録が変更される可能性を軽減できます。

ドメイン名ハイジャックは非常に現実味がある脅威で、企業・団体は関心を持つべきです。しかし、適切な警戒と効果的なツールを使用することで、企業・団体はその規模を問わず、脅威から身を守ることができます。

追加情報

「ドメイン名業界概要報告告（Domain Name Industry Brief）」のアーカイブへのアクセスや購読は、http://www.VerisignInc.com/DNIBをご覧ください。コメントおよび質問は、メール(domainbrief@verisign.com)でお問い合わせください。

ベリサインについて

VeriSign, Inc. (NASDAQ: VRSN)は、ネットワーク化された世界のインターネットインフラストラクチャ―サービスの信頼に値するプロバイダです。ベリサインのサービスは、世界中の企業および消費者が安心して通信や取引を行う上で、毎日何十億回も活用されています。同社に関する詳しいニュースや情報は、www.VerisignInc.com/japan からご覧いただけます。

VERISIGN™

Zooknic Methodology
gTLDデータについては、Zooknicが出典であると標記していますが、ドメイン名の統計サンプルでは、WHOISデータの補完されたドメイン名ルートゾーンファイルの比較を分析に使用しています。これには、特定のドメイン名と登録者のロケーションに責任をもつ登録機関のリストが記載されています。データには、サンプルサイズと市場サイズに基づいた誤差範囲があります。ccTLDデータは、ルートゾーンファイルの分析に基づいています。詳しい情報は、www.zooknic.comをご覧ください。

VerisignInc.com

VERISIGNとVERISIGNのロゴ、他の商標、サービスマーク、およびデザインは、米国およびその他の国々における VeriSign, Inc. 、その子会社の登録商標または商標です。他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。
© 2012 VeriSign, Inc. All rights reserved.

当レポート内の過去のデータと情報以外の記述は、1933年の米国証券法修正第27条A項と、1934年の米国証券取引法修正第21条E項の意義の範囲内で、将来予想に関する記述(forward-looking statement)となっています。これらの記述は、このような将来予想に関する記述に明示または暗示されている内容と、Verisignの実際の結果が大きく異なる原因となるような、リスクと不確実性が内包されています。可能性のあるリスクと不確実性には、次のものが含まれます。競争の激化、当社価格より低い価格で提供される競合サービスの価格プレッシャー、サードパーティ登録機関などのマーケティング業務の変化などの要因による四半期ごとの営業成績における将来の売上、収益性、変動の可能性などの不確実性。経済回復の遅延。現在実施中のインターネット管理民営化の課題。当社の活動または登録機関や登録者の活動の結果発生した法的またはそれ以外の課題の結果。政府・自治体の制定した新規または既存の法律および規制。顧客の行動、インターネットプラットフォームおよびウェブ閲覧パターンの課題。ベリサインが新サービスを成功裏に開発してマーケティングする能力の欠如。当社の新サービスがマーケットアクセプタンスを獲得し、何らかの収益に結び付くかどうかの不確実性。システムの中断。セキュリティの弱点。ハッカー、ウイルス、または破壊目的の行為による攻撃。移行サービスの出費と期間、および売却完了に関する補償要求の不確実性。 Project Apolloが表明した目的を達成するかどうかの不確実性。新しいgTLDの導入の影響。可能な場合、2012年12月1日までに.com Registry Agreementの更新を行えるかどうかの不確実性。ベリサイン社の事業および財務業績に影響を与える可能性のある要因についての情報は、同社の2011年12月31日締め年度の年次報告書(書式10-K)、四半期報告書(書式10-Q)、および最新報告書(書式8-K)など、同社が米国証券取引委員会に提出した文書に記載されています。ベリサイン社は、この発表の日付以降に将来予想に関する記述を更新する義務を負いません。